

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

中学校区におけるめざす子ども像
豊かな人権感覚をもった、ちがいをみとめあい支えあうなかまづくりをめざす。自主的かつ主体的に学びあう集団づくりを実践し、将来につながる生きた学力を身につける。

堺市立陵西中 学校

校長 村田 政教

2025年度 重点目標 「向きあい 関わり 支えあう 陵西のなかまと自分を 誇りに」をスローガンに掲げ、
・豊かな人権感覚をもった支えあうなかまづくりをめざし、子どもたち一人ひとりがありのまま自分らしく、たがいに『ちがいを尊重し心豊かに生きる力を育む。
・自主的・主体的に学びあう教育活動を推進し、将来につながる「生きた学力」を身につける。

確かな学びの現状
学習に対する意欲・関心は高く、ほとんどの生徒が学習は大切だと思ひ、授業に集中して積極的に取り組んでいる。放課後学習会の参加者が増え、基礎的な学習内容の定着が図られ学習時間も増えたが、各学習調査において、テストの正答率は伸び悩んでいる。「聞く」「話す」では、取り組む姿勢もよく、発問に対する正答率も高い。「読む」「書く」では、長文や資料を読み解くことは難しい。漢字や英単語・計算の小テストは集中して取り組み得点は高いが、記述や作文等では書けない生徒が多い。情報を収集・選択し、考えをまとめて表現することも難しい。

豊かな心、健やかな体の現状
ほとんどの生徒が規則正しい生活習慣のもと、朝食をとって余裕を持って登校している。コミュニケーション力に課題がある生徒や集団生活になじみず休みがちな生徒も少なくない。「なかまづくり」を同一学年から学年間に広げたWAF活動(縦割り活動)によるあいさつ運動、清掃活動等のボランティア活動を行っている。生徒が主体になって全校集会、学校行事に取り組み、チーム陵西づくりを充実させている。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)			
								自己評価	学校関係者評価		
確かな学び	総合的な学力の向上	言語活動を進め、「読み解く力・書く力」を重点的に育成する。	●学習端末を併用し、ノートづくりを充実させ「書く」「発表」の学習活動を多く取り入れる。小テスト・単元テスト、家庭学習課題を活用し、「授業のふりかえり」を充実させ、自主学習ノートに取り組む。放課後学習会を毎日開室し、学力向上と学習習慣の定着を図る。	・肯定評価80%以上	校内定期、学力テスト、大阪府チャレンジテスト、堺市CBT調査	年度末	◎ おおむね順調に取り組んでいる。	◎	全教科で学習端末を活用する。ノートとの使い分け、ノート点検、家庭学習課題、小テストを実施でき成果もみられた。放課後学習会は常時開室したが参加人数が少なく学習習慣の定着は課題が残った。	◎	「書く」「発表する」の学習活動は、学力の下支えみまると。小テスト・自主学習ノート・放課後学習の取り組みが、学習習慣の確立につながる。
	授業改善	国・数・英を重点的に教科の特性、生徒の実態をふまえ、習熟度別分割授業、TT指導、入り込み指導を導入する。ICTを活用した授業改善を進め、全教科で「読む(読解)・書く(表現)」学習活動を推進する。	習熟度別分割、単純分割、TTの授業を実施する。	肯定評価80%以上	堺市CBT調査 学校自己診断 実施報告	年度末	◎ おおむね順調に取り組んでいる。	◎	学校自己診断(生徒)「先生は教え方にいろいろな工夫をしている」では89%、「タブレットを使った授業をしている」では97%が肯定的に回答。	◎	習熟度別分割等、多岐の指導形態が個に応じた指導となり、成果が見られる。
			●教員全員が公開授業、研究授業を行い、積極的に相互参観することで授業力を高める。 ★「陵西マインド」を検証、実践し「陵西中校区マインド」づくりを進める。中学校教員が小学校英語、体育授業を担当する。	公開授業、研究授業を年5回以上実施する。		◎	◎	「陵西マインド」を検証した。研究授業および研究報告会を5回開催し、校外に発信した。	◎	公開授業・研究授業は教員の指導力向上に結びつく。	
豊かな心・健やかな体	なかまづくり	ちがいをみとめ、支えあうなかまづくりをすすめて、互いに学びあえる関係を築く。生徒一人ひとりの夢と希望を育む。あらゆる教育活動を通して人権教育・道徳教育を推進する。	WAF活動等の自主的、主体的な活動を充実させ、自尊感情やコミュニケーション力を高める。	肯定評価80%以上	堺市CBT調査 学校自己診断 実施報告	年度末	◎ おおむね順調に取り組んでいる。	◎	学校自己診断(生徒)「学校行事・学年行事は生徒意見が取り入れられている」88%、「WAF活動に進んで参加している」79%が肯定的に回答。生徒会組織をWAF改編した。	◎	WAFの特別活動により生徒の主体性・自己肯定感が高まる。
			●生徒会をWAFに改編し新しい自主活動に取り組む。			◎	◎	常時開室し休みがちな生徒の登校日数が増えた。	◎	不登校傾向の生徒への対応は必須である。	
	生徒指導の充実	意欲的に授業に取り組む、授業を大切にすることを養う。奉仕活動等の自主的活動を推進する。生徒が主体的に学校づくりに取り組む。	◎			◎	学校自己診断(生徒)「学校へ行くのが楽しい」では85%、「授業で自分の考えをまとめたり発表することがよくある」90%、「朝ごはんを毎日食べていますか」では75%「すすんであいさつをしている」80%が肯定的に回答。	◎	授業態度が改善し学習意欲の向上が図られる。		
地域協働	信頼される学校	こども園、小学校および地域とともに「ひとつの学校」づくりを進める。学校情報の積極的な発信を行う。	「7つのやくそく」「早寝・早起き・朝ごはん」等生活習慣の向上に向けて啓発活動を行う。	◎	学校自己診断 実施報告	年度末	◎ おおむね順調に取り組んでいる。	◎	陵西中学校区小中英語、体育、算数数学に取り組み、「新たな学校」の体制づくりに取り組んだ。取り組みはホームページで積極的に発信した。	◎	陵西中学校区での種々の取り組みは極めて大切である。
			★陵西中学校区小中一貫教育を組織的に取り組み、新たな学校づくりを進める。コミュニティ陵西・青少年健全育成協議会と連携をはかり、学校への教育支援を得る。ホームページや学校だより、学年・学級通信等を活用し、積極的な情報発信を行う。	◎		◎	◎	HP等、情報の発信が保護者・地域とのつながりを生む。			

校長より(年度末)
保護者、地域のご協力のもと学校行事や取り組みを実施することができ成果が期待される。同和・人権教育を基軸とした教育活動を通して「総合的な学力向上」を図るとともに「研究報告会」「人権学習公開授業」を開催し発信できた。学力向上は学力保障であり、進路保障につながる。英語を中心に体育、算数・数学の授業改善を校区3小学校に広げ、「新たな学校」づくりとして、小中一貫教育を推進した。また、少子化にともなう小規模校対策としてPTAと生徒会の組織改編を実施して活性化を図った。

学校関係者評価者から(年度末)
本校は人権教育・学力向上(学力保障)・支えあう仲間づくりを三本柱にしている。これらの取り組みが自己実現・社会貢献の礎となる。